

実践のまとめ（第1学年 国語科）

魚沼市立小出中学校
教諭 山本 祐作

1 研究テーマ

情報を整理し、自分の考えを表現できる生徒の育成 ～ICTを活用した交流活動を通して～

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

学習指導要領（平成29年3月告示）では、〔知識及び技能〕の指導事項に「情報の扱い方に関する事項」が新設された。学習指導要領解説では、話や文章に含まれている情報を取り出して整理したり、その関係を捉えたりすることが、話や文章を正確に理解することにつながり、また、自分のもつ情報を整理して、その関係を分かりやすく明確にすることが、話や文章で適切に表現することにつながるとしている。

今年度小出中学校1年生の標準学力検査（NRT）では、「情報を選び構成を考えて話す」「情報を選び構成を考えて書く」「文章を整え感想や意見を伝え合う」などに落ち込みが見られる。このことから、必要な情報を整理し、伝え合う活動を行っていくことが必要であると考えます。

また、「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（中教審第228号）」にもあるように「個別最適な学び・協働的な学び」を実現するためには、一人一台端末のツールとしての積極的な活用が必要である。そこで、本研修では、ICTを用いた交流場を設定し、考えを整理しながら伝え合う姿を目指していく。

(2) 研究テーマに迫るために

① Google jamboardを活用した思考の整理・拡張

Google jamboardはデジタル付箋紙に自分の意見や理由等を記入し、動かしたりまとめたりすることによって思考の整理をすることができる。また、共同編集等を行うことができるため、小集団ごとに自他の考えやアイデアを広げていくことができる。

② 他者との交流の場の設定

小グループで考えをまとめる学習課題を設定し、個人で考えた後に、Google jamboardの内容を根拠にしながら考えを伝え合う。自らの考えを整理し、根拠を明確にしながら伝え合う姿を期待する。

(3) 研究テーマに関わる評価

次の2つの観点から評価を行う。

- ① jamboardで付箋を書き込み、グルーピングなどによって考えを整理できるようになった生徒が8割以上になる。（観察、jamboard、振り返りの記述）
- ② 小グループでの活動において根拠を示しながら自分の考えを述べることができたという生徒が8割以上になる。（観察、振り返りの記述）

3 単元と指導計画

(1) 単元名

複数の情報を関連づけてまとめる～防災リーフレットをつくろう～

防災に関するデータ(現代の国語1 三省堂)

「みんなでいるから大丈夫」の怖さ(現代の国語1 三省堂)

必要な情報を分かりやすく伝える(現代の国語1 三省堂)

(2) 単元(題材)の目標

- ・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。

【知識及び技能(2)ア】

- ・目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができる。

【思考力、判断力、表現力等Cウ】

- ・話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結びつけて考えをまとめることができる。【思考力、判断力、表現力等Aオ】

- ・読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができる。【思考力、判断力、表現力等Bエ】

- ・言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 【(2)ア】	① 「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。【Cウ】 ② 「話すこと・聞くこと」において話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結びつけて考えをまとめている。【Aオ】 ③ 「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えている。【Bエ】	① 積極的に情報と情報との関係に注意して内容を解釈し、学習の見通しをもって話し合い、考えをまとめようとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画(全5時間、本時3/5時間)

次(時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 (2)	・学習の見通しをもつ。 ・資料Bの本文を通読し、実験の結果から導き出される筆者の意見を捉える。	◎教科書を用いて学習過程を確認しよう。 ◎ワークシートに筆者の意見をまとめよう。	思・判・表① 目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。 【ワークシート】

<p>2 (1) 本時</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料Aのグラフの項目から分かることを見つめる。 いくつかの項目を関連付けて課題を考える。 資料Aと資料Bを関連付けて防災の取組を考える。 	<p>◎グラフから読み取れることをあげよう。</p> <p>◎資料Aと資料Bを関連づけ、地域の人々に防災意識を高めてもらう取組を考えよう。</p>	<p>知・技① 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 【jamboard】</p> <p>思・判・表② 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結びつけて考えをまとめている。 【観察・jamboard】</p> <p>態 積極的に情報と情報との関係に注意して内容を解釈し、学習の見通しをもって話し合い、考えをまとめようとしている。 【観察・振り返りの記述】</p>
<p>3 (2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「防災リーフレット」の構成を決める。 「防災リーフレット」を作成する。 	<p>◎イラストや記事の配置を考えよう。</p> <p>◎取り組みが伝わる「防災リーフレット」をつくらう。</p>	<p>思・判・表③ 読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えている。 【リーフレット】</p>

4 単元（題材）と児童（生徒）

(1) 単元について

本単元は、図表等の非連続型テキストと、文章による連続型テキストとを関連付けながら、情報を整理し、自分の考えをつくり、交流して深めることができるようになっている。資料Aの災害に対するアンケートに対して、資料Bの文章では、同じく防災をテーマにしつつ、緊急時の人々の心理面の課題を提示するものである。二つの資料を関連付けることによって、より視野を広げ、考えを深めさせたい。

また、整理した考えを表現する活動として、「防災リーフレット」作りを行う。生徒を情報発信の立場にすることによって、相手や内容によって情報や表現の仕方を主体的に取捨選択しながら、これまでの学習で理解したことや習得したことの活用場としたい。

(2) 生徒の実態（男子18名、女子18名、合計36名）

他者と関わりながら課題を進めることができている。しかし、自分の意見をまとめたり、考えを文章などで表現したりすることに苦手意識をもっている生徒が多い。その結果、他者の意見に迎合してしまったり、受け身になってしまったりする生徒も見られる。今回の単元の学習を通して、ICTを活用しながら、考えを整理し、根拠を明確にして伝え合う力を養いたい。

5 本時の展開（令和4年10月25日実施）

(1) ねらい

jamboardを活用し、自分の考えを整理しながら、資料Aと資料Bを関連づけた防災意識を高める取組について話し合うことができるようにする。

(2) 展開の構想

小グループに分かれて資料Aのグラフから読み取れることをjamboardにできる限り多く入力し、それをグルーピングする。グルーピングされたデジタル付箋をもとに、小グループで資料Aと資料Bを関連づけた防災意識を高める取組を考える。その際には、どのデータを根拠にしたかを述べながら話し合うように支援していく。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	教師の働き掛け 予想される児童（生徒）の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
(5)	○前時の振り返りを行う。 ○本時のめあてと流れを確認する。	T：資料Bにおいて筆者はどのような意見を述べていたか振り返りましょう。 S：複数の人と一緒にいても「みんなであるから安心だ」と思わずに、緊急時には、まず安全なところへ避難すべきだ。	○前時のワークシートを確認する。
資料Aと資料Bを関連付けて、地域の人々の防災意識が高まる取組を考えよう			
(15)	○資料Aのグラフからわかることを読み取る。	T：資料Aのグラフから読み取れることをjamboardに貼ろう。 S：防災訓練に参加している人が16%しかない T：2つ以上の項目から分かることはないかな？ S：食料は持ち出すのに、日用品の持ち出しは少ない。 T：貼り付けた付箋をグルーピングしてみよう。	◇小グループでjamboard上で行う。 ○jamboardの操作支援を行う。 知・技① 項目をもとに意見と根拠をまとめている【jamboard】
(15)	○資料Aと資料Bを関連づけた防災意識を高める取組を考える。	T：資料Aと資料Bをから読み取ったことをもとに、地域の人々の防災意識を高める取組を考え、jamboardに貼ろう。 S：地域の人に学校の避難訓練に参加してもらおう。 T：小グループで説明しながらグルーピングして班の意見をまとめよう。	思・判・表② お互いの意見を結びつけて考えをまとめている。 【観察・jamboard】 態 積極的に情報と情報との関係に注意して考えをまとめようとしている。【観察】
(10)	○グループの取組を学級に紹介する。	T：グループごとに考えた取り組みを紹介しよう。	
(5)	○振り返りの記入	S：本時の振り返りをフォームに記入する。	

(4) 評価

自分の考えを整理しながら、資料Aと資料Bを関連づけた防災意識を高める取組について話し合うことができたか。【観察・jamboard・振り返りの記述】

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際（指導の実際）

- ① 資料Bの本文を通読し、実験の結果から導き出される筆者の意見を捉える。（第1次）

まず、本単元の流れを示し、複数の情報を関連づけて自らが考えたことについて、「防災リーフレット」の形で文章を整え、表現する活動を行うことを理解させた。

資料Bでは、ワークシートを活用することによって、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述をもとに捉え、内容を理解することができた。

- ② 資料Aと資料Bを関連付けて防災の取組を考える。（第2次）

資料Aのグラフの読み取りは、予定以上に時間がかかると考え、前時の最後に各自で気づいたことをメモさせた。そうすることでjamboardを活用した話合いの時間を増やすことができた。

授業時は、黒板とプロジェクターを併用した。黒板には授業の流れを示しておき、学習活動を捉えやすくなるように工夫した。

資料Aのグラフの読み取りでは、①個別で読み取る時間（個別学習）②話合いグループを行う時間（協働学習）③取組を考える時間（個別学習）④班で取り組みを出し合い意見を決定する時間（協働学習）とすることで学習が深まっていった（往還）。付箋を貼るだけで理由を説明することができなかつた生徒も、徐々に理由を述べるようになるようになったり、他者の話を聞き質問を行ったりする様子も見られた。また、図1のように矢印などを用いて、自分たちの思考の流れを明確にし、情報を整理しているグループも見られた。

発表においては、全ての付箋について示すのではなく、特徴的なものや、グループの結論に関係が深いものを発表するように促した。

- ③ 取り組みが伝わる「防災リーフレット」をつくる。（第3次）

前時までの学習を振り返り、防災意識を高めるための取組の「防災リーフレット」（一枚を両面4分割するもの）を作成する予定であったがGoogleスライドへの習熟不足のため「防災広告」として両面1枚でスライドを作成した。図2は生

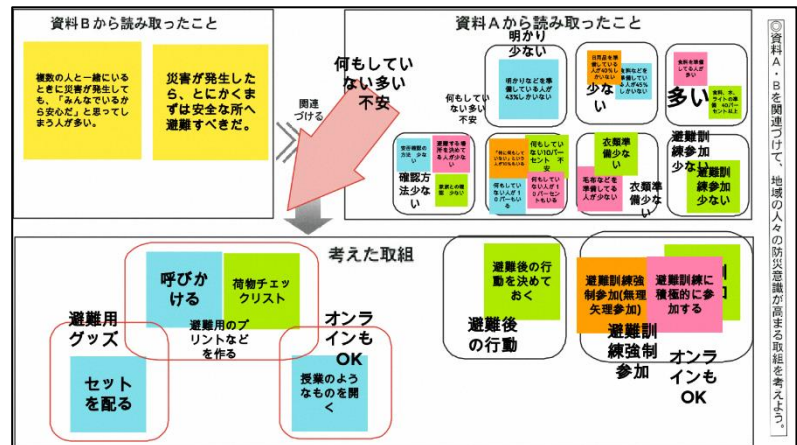


図 1

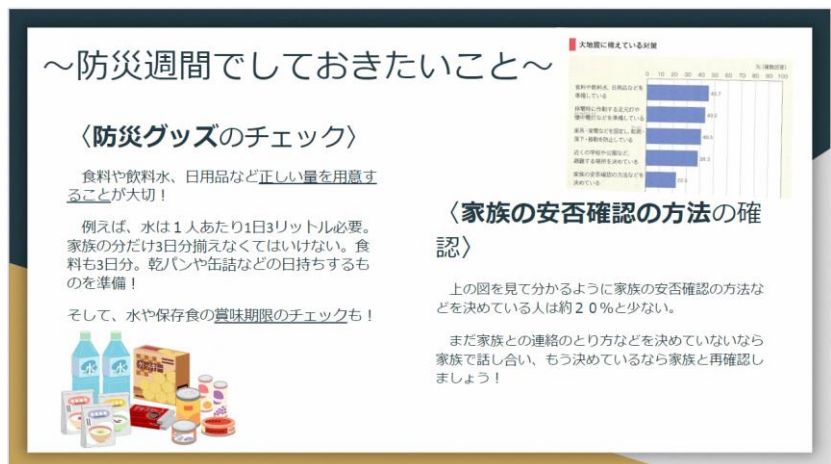


図 2

徒が作成したスライドである。自身が考えた取組をどのような順番で配置し、どのように叙述するか読み手を意識させながら作成させた。完成した「防災広告」(Googleスライド)を見ると、スライドの構成は読み手を意識したものになっていたが、取組には、資料Aと資料Bを関連付けていないものも見られた。これは話し合いの時に、どのような視点で話し合うかの意識付けが足りなかったからだと考えられる。

作成後は、ネットワーク上で他者のものを見られるようにしたり、廊下に掲示したりして共有を図った。

(2) 研究テーマに関わって

研究結果に関する評価結果は以下の通りである(図3・4)

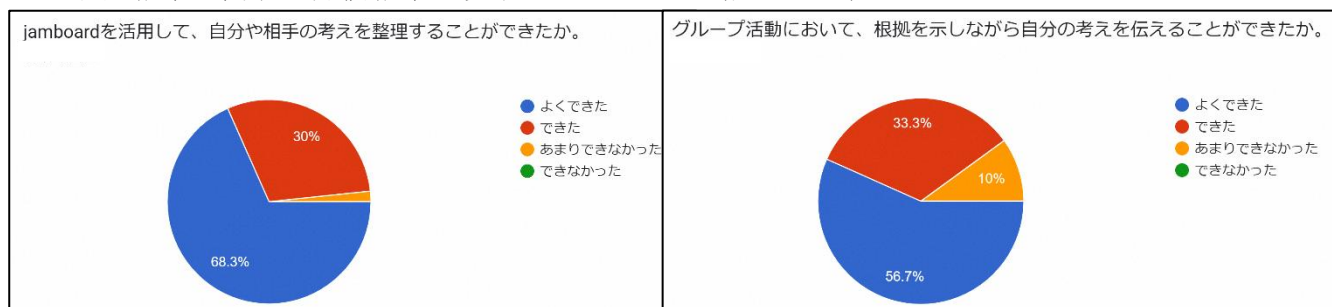


図 3

図 4

- ① jamboardを活用して自分や相手の考えを整理できたと肯定的に捉えている生徒は98%である。Jamboardを用いることで、自己や他者の考えが可視化されたため、整理・拡張がなされたと考えられる。
- ② グループ活動において根拠を示しながら自分の考えを述べる事ができたと肯定的に捉えている生徒は90%だった。肯定的評価は8割を超えたが、否定的評価も10%見られた。これは自分の考えが整理しきれず根拠を示せないこともあるだろうが、話し合い活動のスキル不足も原因ではないかと考えられる。

最後に、本単元を終えての生徒の感想を記す。

- ・意見を出す時に、なぜそう思ったかを伝えることが大事だと分かりました。根拠がなければ、なぜそう思ったか、何が言いたいのか明確に伝わらないので説得力がないからです。
- ・資料をより有効に活用する力がついたと思いました。人の考えを理解して、説明する力がまだ足りないと思いました。
- ・身についた力は、グラフを読み取る力と読み取ったのを言葉にする力とまとめる力です。足りないことは、まとめたこと伝えるとき、もう少し具体的に意見を言うことと積極的に意見や考えを言うことです。

(3) 今後の課題

アンケート結果からjamboardなどのICTの活用は自己の考えの整理には非常に有用であることが分かった。本実践では、ワークシートとICTの使い分けを意識したが、話し合いに用いるタブレット端末の台数や付箋の記入方法などには、まだまだ改善の余地がある。

また、話し合い活動の充実のためには、何について、どのような視点で話し合うかをより明確化し、疑問点などを積極的に出し合えるようにしていくことが必要であると感じた。その為には必然性のある課題設定と、個別学習と協働学習の往還をより意識していくことが大切だと感じる。